

会員だより

花在ればこそ

吾れも在り

【牧野博士】

江戸時代文久2年生まれで昭和32年没の実に4代を生き抜き、生涯、植物を愛した牧野富太郎博士の言葉です。

出身の高知の牧野植物園に行った事はありますが、東京都練馬区にも博士の偉業を讃えるための植物園があることを知り、訪れてみました。



東京都練馬区立牧野記念庭園

入り口にある名木のオカンザクラの時期は過ぎていましたが、庭木の緑の美しい時期で、住宅に囲まれた静寂な場所であり、時代の流れと研究成果を偲びながら、散策を楽しみました。生涯全

国を限なく歩いて、1500種以上の新種や新品種を発見・命名した中で、ここには300種類以上の貴重な草木類が植栽されています。



妻スエさんを讃える歌とスエコザサ

特に「スエコザサ」は昭和2年に仙台で発見したもので、当時、辛苦を共にし、6人の子どもを育てた妻スエさんが病で床に伏しており、感謝と愛情をこめて命名したものです。その翌年スエさんは自宅兼研究室のあったこの地で亡くなりました。

博士は土佐国佐川村と呼ばれていた頃、裕福な造り酒屋に生まれましたが不幸なことに両親を早くに亡くし、祖母の手で跡取りとして育てられました。寺子屋に通っていましたが、新学制改革で小学校に通うことになり

ました。家業重視の当時2年で退学し、家業を継いだのが、幼少より関心の大きかった植物への研究を諦めきれず、番頭を連れての上京で書籍や研究道具を買い求め、実家に持ち帰ったそうす。それでも家業を親戚に譲り、上京。東京大学理学部植物学教室へ出入りし、研究を続け、世界的に認められる植物の発見や論文や、研究書籍を発売しました。しかし学歴がないという理由や学内の採め事から大学から追われました。その後、以前研究を共にした教授が主任教授になり、大学に呼び戻され、その成果を認められて、ついに理学博士の学位を受けました。



博士の座右の名「花在ればこそ吾れもあり」

昭和14年、47年間勤務した東京大学の講師を70

歳有余で辞任。昭和26年第一回文化功労者受賞。



自宅の離れにある和室の研究室

昭和32年94歳で死去するまでこの練馬区にある自宅で病と闘いながら、研究を続けたという。没後旭日章および文化勲章が授与されたが、博士の功績を認めるのに十分であったのだろうか。

博士の言葉の中に「雑草も悪い事ばかりない」とあり、雑草の陰で育つ貴重な植物もあり、抜き取った雑草の堆肥ほど安全なものはなく、家庭菜園を愛する私に大切な言葉になりました。

記・写真：上村サト子

明治の宮廷

文化を彩るもの

2019年5月1日から令和元年となりました。2日は皇居に数万人の人が

全国から一般参賀に訪れていました。その日、私はそのつもりもなく新幹線の東京駅に降り立ってしまいました。しかしチケットがあると娘に誘われ、「特別展明治150年記念展—華ひらく皇室文化—展で皇室の一隅を見ることになり、まず第一会場の住友コレクションを展示する泉屋（せんおく）博物館に行きました。明治時代の宮廷を彩った洋装・食器・織物・ボンボンニエールなど日本の技と美的センス・素材が溢れていました。特にボンボンニエールは西洋で行われていた、記念事を記憶する為の小物入れでしたが、明治時代に日本に伝えられ、皇室や宮家にのみ取り入れられた慶弔を記念したおもてなしの小箱です。



住友コレクション泉屋（せんおく）博古館

彫金師の技のこもった小箱の中には金平糖が入っていたとか、当時の多分身

分の高いとされた招待客はさぞかし褒め戴いて、持ち帰った事でしょう。今上天皇ご成婚記念のボンボンニエールは銀製で菊の御紋を鳳凰と雲が取り囲むデザインでした。

第二の会場は学習院大学史料館でした。中学部で例の事件があったばかりなので、さぞかし警備が厳しかと覚悟していましたが、守衛さんの前を通り過ぎるだけで、拍子抜けでした。展示は第一会場と同じく、皇室、華族の飾り物、写真、衣装、織物などが古色蒼然としながら、伝統の技が輝いていました。この中には古い伝統を持つ皇族、華族と学習院繋がり貴重な諸品があると思いますし、明治時代に急速に取り入れた新文化の早さを感じるものが多かったのです。とにかく、庶民の生活とははるか遠くの世界に思いを馳せるだけでした。二会場とも撮影禁止で内容をお伝え出来ず残念です。

令和元年の幕明けも二ヶ月足らずで、早や落ち着いてきたように思われます。今後、自然災害が少なく、庶民の生活が安定することを願うのみです。

記・写真：上村サト子